

ぶらりわが街宮沢界隈

(47) 路傍(ろぼう)や社寺などで見かけた？—III—

宮沢界隈をぶらり散歩や寺社への参拝で、気になるが調べようがない、知っているようで知らないなどの疑問の幾つかを記してみました。今回は寺社での数についてです。

○稲荷神社の「正一位」—稲荷神社参道などの「のぼり旗」に見られる「正一位(しょういちい)」とは、朝廷が「日本の弥栄(いやさか=ますます栄えること)のために貢献しました」という基準で神社を選び神階の最高位に位し従一位(じゅういちい)の上にあたる。全部で22社があり主な神社は、松尾神社、上賀茂(かみがも)神社、春日大社、香取神宮、鹿島神宮、日吉大社・伏見稲荷大社など。



駒形神社の末社「稲荷神社」

(＊出雲大社・伊勢神宮は位階を超越した別格扱)

・正一位が稲荷神社の別称な理由

正式に認められたのは伏見稲荷大社ですが、後鳥羽(ごとは)天皇(82代1183~98)が伏見稲荷大社を訪れた際に、分霊先でも正一位を名乗ることを許可したとされその時から全国約3万社ある分霊先でも名乗っ

ている訳です。

・「のぼり旗」・「桃太郎旗」

戦国時代に幅広く広まった。理由は敵味方の判別するために武士が戦いに活用したことです。桃太郎は鬼を退治に鬼ヶ島へ乗り込み「合戦」に持って行った旗は、戦いに活用した「桃太郎旗」は「のぼり旗」と同じ意味です。

○「六地藏」—墓地(入口付近)や道端などに六体を並べて安置した地藏菩薩石像。



阿弥陀寺の六地藏

・「六道輪廻(ろくどうりんね)」

生前の行為の善悪のいかんによって、人は死後に六つの世界に転生するといわれ、三悪「地獄道」、「餓鬼道(がき)」、「畜生道(ちくしょう)」。三善「修羅道(しゅら)」、「人道」、「天道」。それぞれに救うために配される「檀陀(だんだ)」、「宝珠(ほうじゅ)」、「宝印」、「持地(じじ)」、「除蓋障(じょがいしょう)」、「日光」の各地蔵の総称。この信仰は、中国などに先例がなく日本独自に11世紀中頃から形成されたものです。

墓参に行かれた際に六地藏の前を素通りするのではなく、そっと合掌することでそれで充分だと思えます。

○阿弥陀寺「多摩四国八十八ヶ所霊場第八十番札所(ふだしょ)」



阿弥陀寺の「多摩四国八十八ヶ所霊場第八十番札所標識」

・なぜ「八十八ヶ所」なのか？

八十八という数字は「米」の字を表し、五穀豊穰(ごこくほうじょう)を祈る意味が込められているという説や、人間の煩惱(ぼんのう)数を表しており、全ての寺院を巡ると煩惱が消え、成仏出来ると言う説などがあります。

・四国八十八ヶ所霊場巡り「遍路(へんろ)」

四国は、平安時代(794~1185)は修験者や僧侶の修行の場でした。空海(弘法大師)も修行したといわれており、人々の災難を除くために霊場を開き各地を巡り歩いたのが原型で、室町時代になると庶民にも広がり、江戸時代初期になると現在とほぼ同じ札所が順番で記され四国遍路が確立。だが、明治初期の神仏分離令および廃仏毀釈(はいぶつぎしゃく)運動による廃寺など霊場の一部が大きく変わり、平成5年(1993)30番札所「善楽寺(ぜんらくじ)」が確定して、現在の霊場の形となった。現代においては、従来の信仰や現世・来世利益(りやく)を期待する巡礼者も大勢いるが、1990年代後半からはいわゆる自己探し、癒(いや)しとしての巡礼者は増え外国人も増加傾向です。

しかし、四国は誰でも行ける場所ではなかったため、四国八十八ヶ所霊場の砂を弘法大師に縁のある寺院「真言宗」に勧請(かんじょう)したなどで、関東・江戸御府内など全国18地域で八十八ヶ所霊場が行われています。

・札所

巡礼の証(あか)しとして、また様々な思い願い事を込めてお堂などに木や金属札を打ちつけ納める場所でしたが、現在は建物を傷(いた)めるために禁止され、その名前だけが残っています。

＊参考文献・資料—ウィキペディア・コトバンク等

(文・写真)防犯宮沢支部 西山 禎一